

破天荒

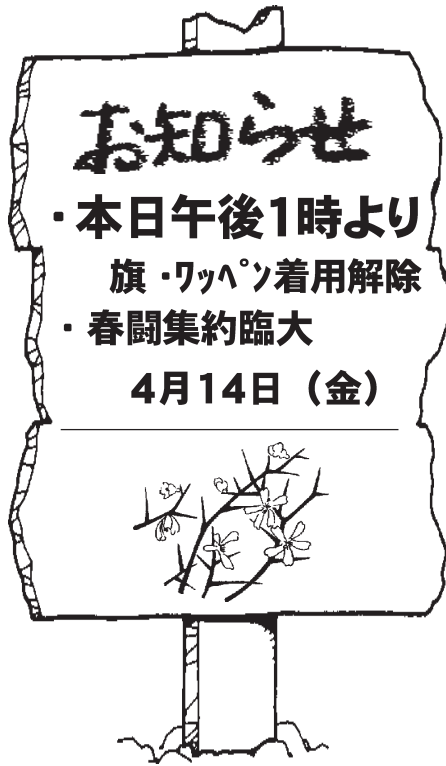
教宣部

5024号

2017年
3月30日

化学一般京滋地本
全竹中労働組合

2017 春闘集約 「上げる気はない」



三度目の賃上げ交渉を行いました。各社の経営者に夢とか希望や展望も聞いてみましたが一言でいうなら現状維持で身勝手な「あるべき論」にしか受け止められませんでした。はあるのだろうか？ということでした。

ベースアップ

社是のなかに「三方よし」というのがあって「お客様よし」「会社よし」「従業員よし」というのがありますが、会社が独り善がりやで押し付ける「あるべき論」の中身は「製品を継続して買ってくれるのだからお客様は満足しているのだから」「求人に応募する人がいるから、従業員が辞めないから従業員は満足しているのだから」

「(システム以外は)黒字で内部留保もできるから経営者は満足している」…何とも身勝手に独り善がりな経営ポリシーに見えます。

会社に「私たちはどのようになれば三社の安定した利益やシステムの赤字が解消するのか？」と聞いたところ、従業員の方たちは年度経営方針に沿って行動していただければ実現できるということでした。

年度利益計画算定表自体を単なる「目標は目標」とし、そして賃上げできる状況を目指していない現状、また経営者が竹中の賃金体系や初任給を「低くない」「下を見ればきりがいい」程度にしか認識していない中で賃上げ交渉は無理と判断し、今春闘は集約の方向とします。

簡単に言えば経営者は「賃上げる気はない」そう



なので、従業員の苦しさや苦勞も気づかずそのままやってればいいさ、すでに尊敬や信頼はなくなつたのだから、それを回復するには誠意しかないことに気づくまで待つしかないかな？

システムの悲願

現在の北川社長は十月に退任されるそうです。組合から見れば設立メンバーの藤川社長がコツコツと貯めた内部留保や製品技術を前社長の瀬戸さんと北川さんに滅茶苦茶にされた思いがあります。次期社長は未定だそうですが五年間、製品改良と品質向上にシステムの生き残る道を見出していたそうです。

不思議だったのは何故、単独決算のオベサテシステムグループの中で「悲願」が「赤字解消」だったのかでした。会社というのは利益を出して当たり前でしょう？利益が出なかつたは経営者が利益を出さない方向に舵を切つたとしたか世間は見てくれません。

順調なオプト

オプトは人員も増え、世交代代も順調に進み、電子が撤退する北花山ビルの拡張も決まっています。売上・利益増の秘訣は「徹底したユーザー密着の営業・製品開発・アフターサービス」だと言いつつ切ります。

なぜ社長会などで順調なオプトを見習えないのか不思議で仕方ありません。

文書化した物は守る

いま赤字続きのシステムでは、昨春秋に協定した福利厚生費ひとり3万を出せないかもしれない。「どうするか春ごろには組合に話したい」としています。(福利厚生繰越金は権利として残す)

甲種嘱託社員の最低賃金を協定化すると守らなければならぬので文書化できないと常々主張している労務担当にとつて、十二月に協定(文書化)しておいて5月に赤字なので減額しますと言つのは余程の理由が将来的な約束ができません。無理だと思つたのですがどうするつもりなんだろう？

職場の声

・気配り、目配り、心配りが無さ過ぎる。せっかく急いで仕上げた図面・資料の照査・承認も、今日の17時と明日の8:30とで何が違うんや？と言われる始末。これでは、みんなやる気なくなります。

上職者であれば「よっしゃ、頑張つて作ってくれたんなら見させてもらおうで！」くらいの言葉はウソでも欲しい。自分より立場の弱い人間を蹴散らして気持ち良く
なっている
のでしょうか。



・まずは自分の立場を守ろうとする部門責任者ばかりなので、ボールを受け取らないし、ボールが来ても知らんぷり。これでは何も進みません。

・製品の添付品に部材が一つ足りないだけでも変更提案書、スタンプリナーが終わり、添付図にそれが記入されてないと図面に記入して図面発行票、やっと変更指示書で終了。それが数十枚。半田こて握らせてよ。